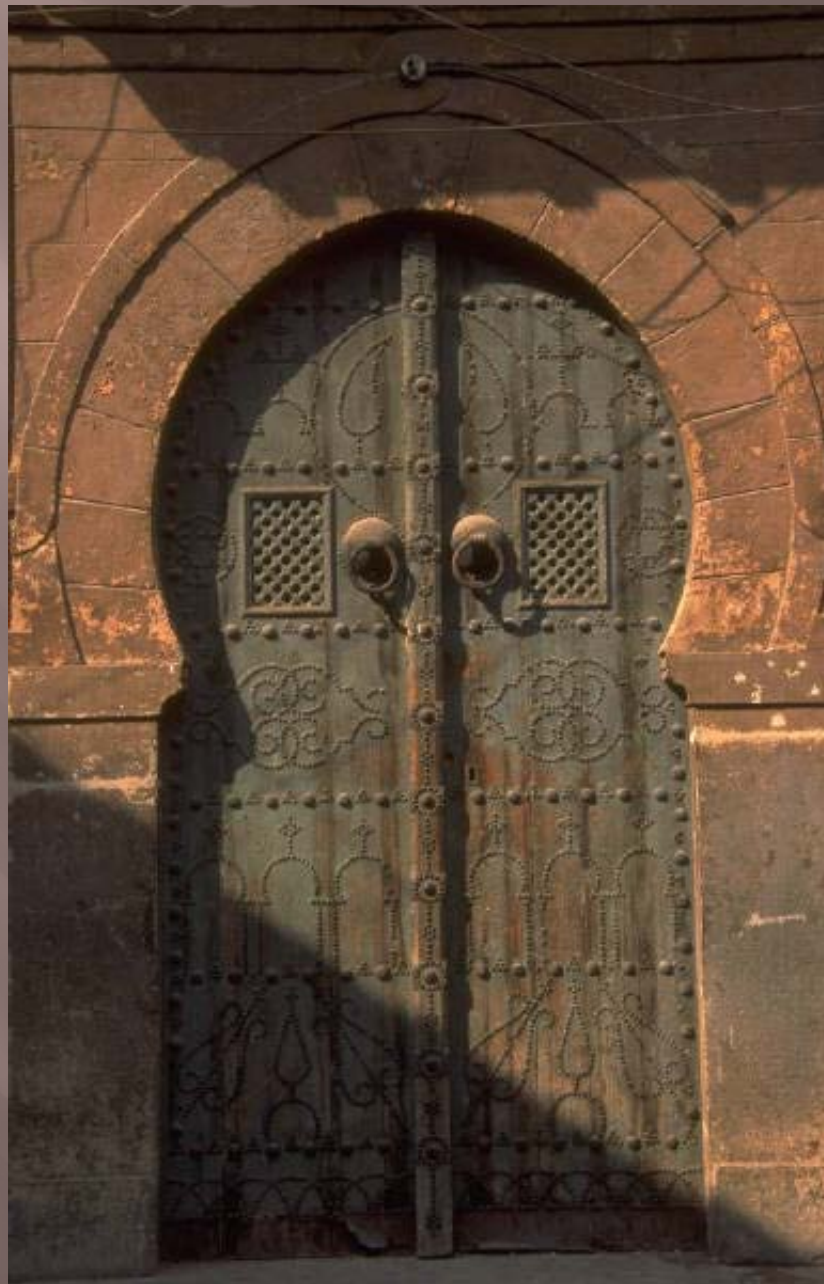




とらいある  
セッション

# 扉

[www.columnland.net/](http://www.columnland.net/)

世界の境界  
心理の狭間

《扉》

この先には一体何があるというのだろうか？  
 未だ  
 誰一人として、戻って来たことのない所  
 開け　　る　　な  
 閉じ　　る　　な  
 覗く　　な　　！  
 背く　　な　　！  
 望む　　な　　！  
 始まりは終りを、終りは始まりを告げる  
 真実  
 貴方はこの取っ手を引く勇氣がありますか？

## マダム・エメラルド

そのおばあさんは、町の丘の上の広い家に独りで暮らしていました。花が大好きな人で、大きな庭には沢山の美しい花を植えていました。その庭は遠くから見ると、まるで丘の上に置かれたエメラルドのコサージュのようでした。だからそのおばあさんは、町の人々から“マダム・エメラルド”と呼ばれていました。

町の子供たちはみんな、マダム・エメラルドの家に遊びに行きました。女の子は押し花の作り方を教えてもらったり、男の子は竹とんぼをもらったりしました。奥さんたちはハーブパイに使うハーブを分けてもらったり、お花のお世話の仕方を教えてもらいました。みんなみんな、白髪に緑のベレー帽が似合うこの老婦人が大好きでした。

マダム・エメラルドの家の扉には、いつも花が飾ってありました。赤いガーベラが飾ってある時は“どうぞ遊びにいらっしゃい”という意味で、白いガーベラの時は“編み物をしているから来ちゃダメよ” 黄色いガーベラの時は、お散歩してるからまた後でね” という意味がありました。だからみんな、赤のガーベラが飾ってある時は扉をノックしましたが、白いや黄色のガーベラの時は扉をたたきませんでした。

ある日から、マダム・エメラルドの家の扉に、黄色いガーベラばかりが飾られるようになりました。そしてその黄色いガーベラもだんだんと枯れてゆき、ご自慢の庭も荒れてきました。家の中に入ってみても、綺麗な家具たちと、緑のベレー帽しか見あたりません。“町のみんなはとても心配していました。

“ねえみんな、いつマダムが帰ってきてても良いようにお庭の花たちのお世話をしましょう！” ある少女が言いました。“それは良い考えだと、町の人々が賛成して、その日からみんながマダム・エメラルドの家を守りました。

やがて時がたつて、町の人々は、何かがあるとマダム・エメラルドの家に集まるようになりました。押し花を作ったり、竹とんぼを飛ばしたり、ハーブパイを焼いたりしました。マダム・エメラルドが愛した花々と共に、町の人々は仲良くすごしました。

それから長い間ずっと、マダム・エメラルドの家は人々の憩いの場となっています。みんなで庭の手入れもし、色とりどりの花が咲いています。やがてマダム・エメラルドの顔を知らない子供たちも、この場所が大好きになりました。

半世紀経った今でも、入り口の扉にはいつも黄色いガーベラが飾ってあります。この広い家と、変わらず美しい庭と、そして町の人々は、マダム・エメラルドが永い永い散歩から帰ってくるのを、ずっと待っているのです。

毎朝七時三十五分

制服を着て家を出る

財布と定期を忘れずに

扉には、鍵を忘れずに

毎朝七時四十七分

満員電車で滑り込む

時の疾走、メトロポリス

扉の向こうでベルが鳴る

毎朝八時二十二分

扉を開けるとラブレター

——なんてね、それは都市伝説  
下駄箱に今日も上靴一足

毎朝八時二十五分

扉の真横は「友達」の席

おはよう、無邪気に笑う君

恋だと告げない、メトロノーム

# メトロポリス × メトロノーム

(今はまだ、このままのリズムで)

## 急激な進化が原因か

## 亜種による被害増大

近年、野生の自動扉を街のあちこちで見かけるようになった。もはや街の景観の一部として不可欠なものとなってきた自動扉だが、その一方で自動扉の亜種、自動扉もどきによる被害が問題となっている。

神奈川県川崎市の住宅街で、先週火曜日、大学生の佐藤さんが家を出ようとしたところ、自動扉が開かず、自動扉に衝突、かすり傷を負った。その後警察の調査で、

佐藤さんがぶつかった自動扉が自動扉もどきであることが判明し、捕獲された。「いつも何気なく通り過ぎていたので、まさか自分の近くに自動扉もどきが現れるなんて思いもしなかった」と佐藤さんは振り返る。

佐藤さんのような被害のほかによそ見をしていて自動扉もどきにぶつかる、どれだけ待っても自動扉が開かないと思ったら自動扉もどきだったなどの被害が報告されている。被害は都市部を中心に日本全国で確認されているという。

自動扉（学名アウトマチクドオア）は、意外にも新しい種ではな

い。古くはギリシャ時代のヘロンの文献にその姿を現している。そもそも住科扉目の生物は、世代交代のサイクルが非常に長いため、長い間劇的な進化は起こらなかったのだ。しかし、近年の急激な家の増加と、それに伴う扉のすみかの拡大が、その個体数の爆発的な増加を招いた。そしてその結果、自動扉もどきが姿を現すことになったと考えられている。

神奈川県農林水産課の木下さんは、自動扉もどきの被害対策について次のように語った。「自動扉もどきはどこにでも現れますが、特にボーとしている人や、影の薄い人の近くに現れるようです。我々としても捕獲を行っていきませんが、皆さんもいつもの自動扉が開かないこともあるのだということを考えて自動扉と接してください。」

人間のパートナーとして長い間接してきた自動扉だが、あまりに近い存在になった為にこのような被害が生じるようになってしまった。自動扉との付き合い方を真剣に考えなければならぬ時代が来ているのかもしれない。

「行ってきます」と、玄関をくぐるたびに、

僕はきつと、少しずつ大人になっていく。

# OUTDOOR

始まりは一枚のドアだった。

ただの出入り口であった空間に

一枚の板を取り付けたのであった。

その一枚の板は外部と内部の境界を

目に見える形でこれ以上なく明確にした。

内部の停滞を封印することに成功したのだ。

我らは外部での自由を愛し、自然に協力し合った。

協力は一体感を生むが、それはまた敵を作ることと同意である。

自分達とは違うルールで動く内部の奴らは不気味でしかないからだ。

敵対する理由なんて元々ないのに... このいなかでこんな由理のす

敵対する理由なんて元々ないのに... このいなかでこんな由理のす

敵対する理由なんて元々ないのに... このいなかでこんな由理のす

敵対する理由なんて元々ないのに... このいなかでこんな由理のす

敵対する理由なんて元々ないのに... このいなかでこんな由理のす

敵対する理由なんて元々ないのに... このいなかでこんな由理のす

敵対する理由なんて元々ないのに... このいなかでこんな由理のす

敵対する理由なんて元々ないのに... このいなかでこんな由理のす

敵対する理由なんて元々ないのに... このいなかでこんな由理のす

敵対する理由なんて元々ないのに... このいなかでこんな由理のす

# INDOOR

## 幸福の檻

私はとある屋敷の一室に閉じ込められている。鍵がかけられているというわけではない。むしろ鍵は内側から自由に開け閉めすることができるし、部屋には嗜好品が大量にあって快適だ。そして専属の家政婦までいる。

これだけ聞くと、私が閉じ込められているとは思えないだろう。確かにこの部屋にいれば困ることはほとんどない。しかしそれは裏を返せば、私が外に出る必要性を極限まで削ぎ落とした結果がこの部屋なのである。

この部屋にいる限り私は幸せなのかもしれない。幸せにしてやってるのだから部屋からは出るな。そんな脅迫にも似た思いを家政婦から感じることもできた。だがその幸福はあくまでも、この部屋の中で困ることがないという程度の物だ。その幸福には上限があり、与えられた幸福はその歪みも受け入れなければならない。

扉はいつでも開けられる。そしていつでも外に出ることができる。今まで何度も、そう思っては閉ざされた扉から目を逸らしていた。しかしそんな日々も今日で終わりで。幸福の歪みはもはや是正することができないほどに広がってしまった。

私の手元には家政婦に持って来させた一冊の本が握られている。それは私の指定した物とは違う本であった。たかが本である。しかし、そのたかが本における私の意向すら、満たされることはなくなったのだ。

扉の前に立ち、静かに息を吐く。本を床に放り投げ、ノブに手をかけた。震える手に無理矢理力をこめ思い切った扉を開け、その勢いのまま外に出る。そこには、家政婦が冷たい目をこちらに向けて立っていた。その目を見据えながら、私は言った。

「母ちゃん、俺、今日から自分でジャンプ買いに行くよ」

その一瞬が、彼の唯一の楽しみでした

普段の彼は、小部屋の中にひとりぼっち

そこは暗くて狭くて、とても淋しい、重い扉で閉ざされた場所  
外の世界を見られるのは、扉が開いたときだけでした

その一瞬が、彼の唯一の楽しみでした

もう随分昔のこと、初めて外の世界を見たとき

光と笑顔の溢れる場所へ、飛び出していきたいと思いました

しかしそれは、彼には許されていないこと

我慢して、我慢して、毎回じっと、扉が開くのを待つのです

いつだってちゃんと、決まった時刻に、この扉は開くのだからと

その一瞬が、彼の唯一の楽しみでした

彼はいつだって見ていました

あんなに小さかった女の子が、生涯のパートナーを見つけたこと

お母さんが嬉しそうにしていたこと

お父さんが、淋しそうにしていたこと

彼はいつだって知っていました

おじいちゃんがなくした万年筆は、実はちゃんとしまっていること

見つけてあげたのはおばあちゃんだということ

おばあちゃんが「見つかりましたよ」って、もう言っておげられないこと

彼はいつだってわかっていました

同じ家に住んでいても、家族にはしてもらえないこと

言葉を交わすことすらできないこと

時を告げるたびに変わっていくみんなを、見守ることしかできないこと

自分がもうすぐ、止まってしまいうことも

それでもまだ、彼はじっと、扉が開くのを待つのです

もうしばらくは、決まった時刻に、この扉は開くのだからと

時計の中の白い鳩、一時間に一度の外の世界

その一瞬が、彼の唯一の幸せでした

# コンテスト結果

## [Aの部]

| コラム番号 | コラムタイトル             | 点数                                                                                                                                                                                                                                                                | 順位  | 特別賞  |
|-------|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------|
|       |                     | まじょコメント                                                                                                                                                                                                                                                           |     |      |
| A01   | 《扉》                 | 13 pt                                                                                                                                                                                                                                                             | 3 位 | 0 sp |
|       |                     | <p>トップに置かれる、いわゆる「表紙作品」には、さっくりポエムやレイアウト派がよく起用されます。お見知りおきを。</p> <p>これはドア+ノブに見立てて、この扉を開く者への箴言（しんげん）といった趣ですね。</p> <p>もちろん、開くよね！</p> <p>イチオシフレーズ：「貴方はこの取っ手を引く勇気がありますか？」「真実を」「始まりは終りを、終りは始まりを告げる」「覗くな！」「未だ」</p>                                                         |     |      |
| A02   | マダム・エメラルド           | 14 pt                                                                                                                                                                                                                                                             | 2 位 | 0 sp |
|       |                     | <p>メルヘンの国に、ふんわり、やわらかな春色ストーリーが咲きました。</p> <p>不在にしてなお、人びとを和ませ続けるマダムの存在という設定がすてきです。描写もていねいに育てられた花園のように、押し花やハーブパイや小道具の揃え方がきれい。</p> <p>イチオシフレーズ：「半世紀経った今でも、入り口の扉にはいつも黄色いガーベラが飾ってあります」</p>                                                                               |     |      |
| A03   | メトロポリス×メトロノーム       | 13 pt                                                                                                                                                                                                                                                             | 3 位 | 0 sp |
|       |                     | <p>メトロ二重奏、リズムカルに。ういういしい疾走感で4つの景色をポンポンポンと手際よく見せて、4コママンガのよう。</p> <p>つづく感で終わっているのも、若葉の季節に似合っているですね。</p> <p>ポエムのこちよさがフロアに伝わって、今週のイチオシフレーズ大賞です、おめでとう！</p> <p>イチオシフレーズ：「扉の真横は「友達」の席」「時の疾走、メトロポリス」「今はまだ、このままのリズムで」×2「扉を開けるとラブレター——なんてね」「下駄箱に今日も上靴一足」「恋だと告げない、メトロノーム」</p> |     |      |
| A04   | 急激な進化が原因か 亜種による被害増大 | 17 pt                                                                                                                                                                                                                                                             | 1 位 | 0 sp |
|       |                     | <p>テッテイして大マジメに語りきってみせた姿勢に惚れ惚れです。ふふっと軽く笑った後、もう一度読み直して、ふうむ現代文明批判につなげられそうだなと深読みしてみるも良し。</p> <p>コラムの世界では、こうした作品を「正統派もどき」と呼びます。ご用心召され。</p> <p>激戦を制しての首位でしたね、おめでとう!!</p> <p>イチオシフレーズ：「野生の自動扉を街のあちこちで見かけるようになった」×2「自動扉（学名アウトマチクドオア）」×3「自動扉に衝突、かすり傷を負った」</p>              |     |      |

## [Bの部]

| コラム番号 | コラムタイトル             | 点数<br>まじょコメント                                                                                                                                                                                                                                                                            | 順位  | 特別賞  |
|-------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------|
| B01   | (無題) 大人への扉          | 24 pt<br>さわやかに。まっすぐ未来を信じてポジティブ。「きっと」のひとことが添えられることで、未然形の前向き感がぐっと加速します。そうか、下宿暮らし組も「行ってきます」って言うべきなんだな（誰に？）。無題だけれど、「大人への扉」と呼んでほしいかな、と作者さん談。<br>短文は言葉の引き算。減らして減らして、どうしても必要な言葉だけにしたら、どうなるかトライしてみてくださいな。手抜きと思われたら作者の負け！<br>ういういしい気分ヒットして、断トツ首位に輝きました、おめでとう!!<br>イチオシフレーズ：「少しずつ大人になっていく」「行ってきます」 | 1 位 | 0 sp |
| B02   | OUTDOOR<br>／ INDOOR | 14 pt<br>社会のなかに偶然引かれた境界線である「扉」が、その存在があるだけで確実に「何か」を生じさせていく。それも、まがまがしき何かを。<br>レイアウトと言葉の両方で、そんな宿命を描ききってワザアリです。<br>イチオシフレーズ：「始まりは一枚のドアだった」「敵対する理由なんて元々ないのに」                                                                                                                                  | 2 位 | 0 sp |
| B03   | 幸福の檻                | 8 pt<br>うわあダメされたあ、マジメストーリーかと思いきやっ！<br>ミスリードものは、こんなふうに、ラスト1行だけでびしっと落とすのが腕の見せどころです。順位は上がらなかったけど、ごらんの通りみごとにイチオシフレーズ総なめ!!<br>挑戦してみよう、そうしよう。<br>イチオシフレーズ：「母ちゃん、俺、今日から自分でジャンプ買いに行くよ」×10「ジャンプ」×2「扉はいつでも開けられる」                                                                                   | 4 位 | 0 sp |
| B04   | (無題) 鳩時計            | 11 pt<br>ラストはしみじみと。<br>おじいさんの古時計に鳩が棲んだような。<br>うれしくて、さびしい人生。リフレインをきれいに響かせつつ、それ自身がまるで時を刻むリズムのようにここちよく浸れました。<br>イチオシフレーズ：「その一瞬が、彼の唯一の楽しみでした」「一時間に一度の外の世界」                                                                                                                                   | 3 位 | 0 sp |